

FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040

会長：柳原寿男 副会長：鈴木廣利
幹事：宮川邦光 副幹事：松葉隆夫

第1607回

<ソング> それでこそロータリー
<ソングリーダー> 岩崎 四郎君



CELEBRATE
ROTARY

100 Years

2004-2005年度
RIテーマ

ロータリーを
祝おう

100年の歩み

グレンE.エステス・シニア



富士山 (焼津市田尻海岸にて)

[写真提供：櫻井龍太君]

会長挨拶

柳原 寿男君

ロータリー100周年にあたる2004-05年度も後半に入りました。

年度初めに、グレンE・エステス・シニアRI会長は、奉仕すべき四つの事項を特に強調しました。保健問題、識字率の向上、水管理とロータリー家族です。ロータリーの友7月号には次のように述べています。

「先進諸国では当然のことのよう、きれいな水を飲んでいる。発展途上国では安全な水は貴重で、国連の会合で、10億以上の人々が安全な水に恵まれていないことを知った。その結果、毎日6,000人以上の人々（ほとんど子どもたち）が、汚染された水が原因の病気で命を落としている。……」

世界人口の約4割以上が、恒常的な水不足に直面しているといわれます。「20世紀に石油をめぐる多くの戦争が起きたと同様、21世紀には、水をめぐる戦争が起きるだろう」と世界銀行で水問題を担当した人が云っています。

地球の水の97%は海にあります。残りの3%の淡水も、約70%が氷や雪として存在し、我々が使える30%の淡水は、地球全体の水の0.8%にすぎないそうです。

日本は雨の多い国で、世界平均の2倍近い年間1,200ミリ以上の雨が降ります。そして、静岡県は降水量は年平均2,400ミリ、大井川、安倍川水系の山岳地域及び伊豆天城山系、富士山周辺では、年間3,000ミリを超える降水量が記録さ

れます。

さて連日のように報道されるスマトラ沖巨大地震とインド洋大津波による犠牲者は、22万人を超したと伝えられます。震災後にWHO（世界保健機関）は、「コレラ、腸チフスの感染がいつ起きてもおかしくない状況にある。感染症による死者が、地震と津波による死者数と同規模に達する恐れがある」と警告していました。そして1月22日付インドネシアの新聞は、約20人のコレラ患者が確認されたと、初めてコレラ発症を伝えてきています。避難所で汚染された水やトイレ不足が原因とみられ、これから更に感染の拡大が懸念されます。

静岡県には大井川、安倍川、富士川、狩野川、天竜川等の豊かな水資源をもたらす河川があります。今迄、私共の周辺では、水不足の辛さを体験することはありませんでした。しかし、利用できる水には限りがあります。地震災害時の電気、ガス、水道、道路等のライフラインの復旧の第一は水の供給にあります。予想される東海地震にも備えながら、あらゆる面から水の問題を考えてみる必要があると思います。

出席報告

松葉 隆夫君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
30 / 41 73.17%	27 / 41 65.85%

(1)欠席者(事前連絡とメーキャップをどうぞ)

○飯塚君 ○酒向君 ○杉山君 ○鈴木廣君

○松葉義君 浅川君 板倉君 鈴木晶君
鈴木舜君 仲田晃君 望月志君

■ ビジター

藪崎 幸一君(藤枝南) 伴野 正明君(藤枝南)

■ スマイル BOX 松葉 隆夫君

・ 1月16日、55才になりました。一昔前ならば定年のとします。あと10年いかに生きるか模索しています。 村松 英昭君

・ 正月早々肺炎で入院しましたが、お蔭様で先週なんとか退院できました。

結婚記念日のお祝いありがとうございました。

増田 國衛君

・ 結婚記念日 山田 昭雄君

・ 結婚記念日のお祝いありがとうございました。

仲田 廣志君

・ 皆出席記念品ありがとうございました。入会以来なんとか頑張っています。 青島 克郎君

・ 皆出席祝ありがとうございました。

宮崎 啓之進君

・ 皆出席祝ありがとうございました。

松葉 隆夫君

スマイル累計額 527,300円

■ 委員会報告

社会奉仕委員長 後藤 功君

今年度、第1回社会鍋を計画しました。ご寄付のご協力を宜しく申し上げます。

<切手・古切手・ハガキ・商品券・図書券

テレホンカード(未使用・使用済)>

■ 外部卓話

青少年交換学生 岡部 紗代子様

2003年8月
から2004年7
月まで、島田ロータ
リークラブの推薦
を戴き、青少年交換
学生としてメキシ



コ合衆国へ留学していました、岡部紗代子です。

今回は、ロータリーの例会で話をさせていただ

く機会を頂き大変嬉しく思っています。

メキシコでの学校生活、発展途上国の一つとしての現状、そして国際ロータリーの活動である青少年交換プログラムについて話をさせていただこうと思います。

メキシコでの学校生活ですが、私が在籍していた学校は中高等学校と一貫の学校でした。私は高3に在籍し、学校のシステムは日本と同様クラス単位でした。ですから、レベル分けされる英語の授業以外はすべてクラスメイトと行動を共にしていました。

授業の種類は、数学、英語、政治、経済、管理経営学、哲学、心理学などです。これらの授業は、そのほとんどでプレゼンテーション(発表)があります。成績の判断基準も日本とは異なるため、積極的に発言しなければ成績は落ちてしまいます。そして、ここがさらに日本とは異なるのですが、中間テストや期末テストというものは約1週間ほどの期間の中で行われ、その間成績優秀者はテストを受けなくてもいいのです。

場所が変われば、その場での常識も大きく違ってきます。日本での常識を常識と捉えたと、海外での生活では非常識になりかねません。日本と海外においたことだけでなく、自分自身の身近な場所でも起こりえることです。

この常識という言葉に関しては、学校での生活より、日常生活で日本での常識との違いを多く感じました。まず、メキシコ合衆国は日本と異なり、発展途上国と位置付けられる国であるという事です。ですから、貧富の格差は日本では見られないほどであり、それゆえ犯罪多発、衛生状態はいいものとはいえません。

貧富の格差は、言葉では説明しにくい事ですが、日本での生活をしている人々にはなかなか想像のつかないものだと思います。

裕福な家庭は、コロニアと呼ばれる四方を壁に囲まれた、24時間の監視と出入り規制のされている場所に住んでいます。中には、そのコロニアの中心地にゴルフ場があり、それを囲むように

家々が立ち並んでいる場所もあります。貧困な家庭は、ブロック作りの本当に周りを囲っただけの家に住んでいる人々。そして、メキシコの先住民である人々は、竪穴住居とでも言うような場所に住んでいます。時代が変わるにつれて、この先住民の人々は、早朝から町の道路に立ち、信号で止まった車に歩み寄り施しをと手を差し伸べています。それは、大人たちだけではなく、生後間もない赤ちゃんを背負った子どもや、母親です。これと同様のことを、障害者の方たちもしています。日本のように施設が十分でなく、職業訓練などはなかなかできないものなのです。

私の1番最初のホストマザーは、特別養護学校で働いていたので、何度かその学校を訪ねさせてもらった事がありますが、物品の足りない中での仕事だと思いました。日本の障害者施設を訪問している私にとっては、日本の状態が常識化していたからです。そして、特別養護学校だけでなく、一般の学校も同様です。私の在学していた学校は私立ですが、公立の学校は、荒れ放題といっているのか。そして、コンピューターや図書館などが十分ではありません。この現状は、知的格差を生み、将来において職業限定をされているも同様なのです。ですから、裕福な家庭はこぞって、名門といわれるような私立学校へ子どもたちを進学させています。しかし、多くの子どもたちは公立学校での教育を受け、ほぼ将来が決まってきたてしまっています。

日本での生活をしている中高生、大学生に是非見て、体験してもらいたいことだと私は思っています。戦後急成長をした日本にとって、今の状況は不況と言われているが、まだまだそんなことはないのではと思います。もちろんリストラや、職業がない時代だとは思いますが、それでもどんな仕事でもいいのであればあるのですから。

私は、この青少年交換学生を経験させていただき、私自身がどれほど恵まれており、私の友達や今の中高生がどれほど恵まれているかを実感しました。そして、物が溢れている時代と言われます

がその通りだと痛感しました。

よく目にすることですが、一度社会に出た方が、大学でもう一度勉強をする。必要な知識を、価値を知ったところで学ぼうとする事。このことが大切だと思いました。私の同級生ですが、大学に入ったもののアルバイトに明け暮れる日々という方がいます。親に授業料を払ってもらい、自分はアルバイトで稼いだお金を飲み代や洋服にかける。矛盾しているのではないかと思います。

私自身は、この経験から大学へ進学し、発展途上国への協力開発を学び、大学院で計画行政を研究し、発展途上国の現状を変える仕事がしたいと考えました。それだけでなく、今ではスマトラ沖地震被害を見、災害復興のための計画行政の研究をしたいとも考えています。このような考えを持つことができたのも、この経験があったからです。

この藤枝ロータリークラブから、ブラジルへ交換学生が派遣されるという事ですが、とてもよい経験になると思います。ブラジルもメキシコ同様貧富格差の大きい国です。ブラジル人の友達はメキシコよりも場所によって極端に貧富格差がある場所だといっていました。交換学生が一体なにを感じ、見聞きしてくるかは、全く分かりませんが、乗り越えられない困難はないと思います。Plus 思考で頑張っていくという事が大切だと言う事も、私自身が身をもって学んだ事ですから、頑張りたいと思います。

その経験が終わった時、自然と道は開く事ができると思います。私は、この経験を生かし立命館大学国際関係学部にて特別入試で合格する事ができました。滅多にできない経験は、それだけで大きな価値だと思います。

最後に、ロータリー活動の一環として今後も青少年交換をしていって欲しいと思います。学生を送り出すロータリーとしては、海外からの学生の受け入れやその他の負担がかかると思いますが、このプログラムがどれだけ素晴らしい事か是非知っていただきたいです。海外からの学生を受け入れる際には、大変だと思いますが、受け入れる家

族にとってもこれはいい経験だと思います。たった1ヶ月でさえ一緒にいただけで1年以上も交流が続く事もあるのです。事実、ロータリーとは関係ありませんが、私が1ヶ月留学したアメリカの兄弟は今年我が家に遊びに来ます。普段は、近況を報告しあうだけですが、交流が続き、世界が小さくなった感じがします。ぜひ今後とも、この素晴らしいプログラムが継続され、多くの学生が国境を感じずに、人間としてのかかわりを持てることを願っています。

それではこれで、話を終らせていただきます。
今日はこのような機会を与えていただきありがとうございました。

(担当 / 青島克)